

「猫との暮らし」

最近猫ブームと言われている。飼育されている頭数も犬よりも猫が増えている。私も猫を飼い始めて、今年で6年になった。

人間の高齢化と同様に、犬や猫の寿命も伸びている。一般社団法人ペットフード協会の平成30年全国犬猫飼育実態調査では、犬の平均寿命は14.29歳、猫の平均寿命は15.32歳と、猫の方が少し寿命が長いようだ。動物病院では人間と同じように、CTや血液検査ができ、高度な手術を行う医師も増えている。物言わぬ動物たちの病状に、獣医師がいち早く気がつくことができる環境になりつつあるようだ。

ペットというよりは、家族の一員として、猫を愛でている人も多いただろう。かつてはねずみとりとして飼われていた猫が、寝室で一緒に眠り、家族と同じ部屋で食事を食べ、旅行と一緒にいく時代になった。残飯を与えるのではなく、専用のフードを食べさせている方が多いのではないだろうか。

猫を飼っているため、猫のニュースにはめざとくなってしまうが、今年発表された「猫は自分の名前を聞き分けられる」という発表には衝撃を受けた。というのも、そのニュースを聞く前から、うちの猫ははっきり名前を認識しているのではないか、という気がしてならなかったからだ。今年上智大学が猫の音声認識に関する研究結果を発表し、英科学誌「サイエンティフィックリポーツ」¹⁾に掲載され(2019年4月5日朝日新聞朝刊)、大きな反響となっている。猫が自分の名前を聞き分け、呼ばれたことに気づいているのは、猫を飼っている人は嬉しいのではないだろうか。猫は犬と違って、飼い主の呼びかけには無反応のことが多い。名前を呼ばれていることをうっすら分かりつつ、知らん顔をするとところも猫の特徴だが、私はそういうところも含めてかわいいと思ってしまう。

猫がいる生活は、自由きままな猫にどこか憧れをもちながら、思い通りにならない猫の生態を楽しむ醍醐味がある。願わくば、猫の寿命が更に延びて、一緒に居られる日々が増えて欲しい。(H)

1) Scientific Reports 2019 Apr 4;9(1):5394
<https://www.nature.com/articles/s41598-019-40616-4.pdf>